



山口としや 通信 第50号

奥能登豪雨災害 被災者支援の加速を

9月21日に発生した線状降水帯により、1月の地震被害から復旧が進んでいた奥能登で豪雨による災害が発生しました。亡くなられた方に哀悼の意を表すとともに、被災された方へお見舞い申し上げます。

ようやく入居できた仮設住宅が、床上や床下浸水し、避難所生活に逆戻りした方が多数いらっしゃいます。また、復旧したライフラインが被害を受け、不自由な生活に逆戻りしています。

国からもっと多くの支援が必要です。予備費ではなく、復興への道筋を示し、そのための補正予算を国に対して求めていきます。さらに、市としてできることを追求していきます。



7月8日、松任駅前で行われた原水禁の平和行進に参加しました。世界では多くの戦争が起き、多数の死者がでています。いつまで武器で殺し合うのでしょうか。戦争ではなく、共存共栄のための外交を求めます。

2024年9月議会報告

教育環境の充実を求める

(質問) 学校給食の無償化は市長の公約の一つ。今年度中学校の給食を無償化した。次は小学校。来年度予算に小学校給食の無償化を盛り込むのか。

→ (市長) 小学校給食費については、現在物価高騰分を支援している。無償化については、安定的で恒久的な財源の確保が課題。実施の時期については慎重に検討する必要があると考えている。今後も全国市長会を通じ、国に対して要望していきたい。

(質問) 広陽小学校の増改築について、グラウンドに第2体育館と特別教室棟を増築すると聞いた。グラウンドでの活動の安全性を確保するため、グラウンド北側の農地をグラウンド敷地として購入しては。

→ (教育長) 増築後のグラウンド面積は、文部科学省の小学校設置基準における面積を満たすように計画している。このため、学校敷地を拡張せず増改築工事を行う予定だ

が、今後、地域の皆さまや関係団体の方々などのご意見を伺った上で、グラウンドの拡張については検討していきたい。

(質問) 基準を満たしているとはいえ、お隣の明光小学校との教育施設の格差を感じるのは事実。是非拡張を。

→ (教育長) 明光小と広陽小の教育施設に格差が出ないように、検討項目に加えたい。

(質問) 広陽小の増改築で普通教室と特別教室は何室になるのか。

→ (教育長) 普通教室は27室、特別教室は第2音楽室を増やし8室とする計画。

(質問) 市としてピーク時の児童数を何年に何人になると見込んでいるのか。

→ (教育長) 24年9月現在の児童数は625人。先に行われた東明小学校区の三浦・幸明町土地区画整理事業において造成された菜の花地区への転入実績を基に予測したところ、31年度から33年度の3年間におい

て、ピークを迎え 870 人前後で推移すると見込んでいる。

(質問) 教室不足はおこらないのか。

→ (教育長) ピーク時に必要となる普通教室は 27 室であり、教室数が不足することはない。

としゃチェック

小学校の給食費の無償化に約 3 億円必要です。ぜひこの費用を来年度予算に組み込み、公約を実現してほしいものです。ほぼ同じ人口の小松市では実現しています。

コロナ感染症の記録誌、災害対応自動販売機、ギャンブル依存症を問う

(質問) コロナ感染は続いているものの、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の 2 類相当から 5 類に位置づけられ、コロナ禍は収まった。次の感染症に備えるため、実施した対策をまとめ、検証する必要があるのでは。全国の様々な自治体で、新型コロナウイルス感染症対策をまとめ、記録誌として冊子にしたり、ウェブで発刊している。本誌でも記録誌を作成しては。

→ (総務部長) 20 年 1 月 16 日に国内で最初の感染者が発表されて以来、本市でも新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、様々な対策を講じてきた。これまでの感染症対策において得た知見や経験などについては、今後活かすため、風化することのないよう、関係各部署において確実に引き継ぐこととしており、記録誌として作成することは考えていない。

(質問) 各部署で引き継ぎがなされたか、全体で確認が必要では。

→ (総務部長) 確認の方法は各部署において考えていただきたい。



キーを回すと、無料で使用できるようになります。

(質問) 引き継ぐ際、対策に対して、検証や考察が必要と考えるが。

→ (総務部長) 検証や考察は絶対必要なこと。確実にそれも入れた形で引き継ぐようにする。

(質問) 災害時に管理者のキー操作で無料で購入できる災害対応自動販売機が開発されて

いる。災害対応自動販売機をコミュニティセンターに民間の協力を得て設置しては。

→ (企画振興部長) 本市では、28 地区のうち 7 地区のコミュニティセンターに自動販売機が設置されているが、災害時に対応したものではない。避難所となるコミュニティセンターに災害対応の自動販売機の設置は、有効であることから、他の市町村の事例を参考に研究していきたい。

(質問) 避難所となる体育館に設置も検討しては。

→ (観光文化スポーツ部長) 体育施設も避難所として使われるので、企業と調整して検討したい。

(質問) 「全国ギャンブル依存症家族の会」の方から話を伺った。ギャンブルと聞くとパチンコや競馬などをイメージしたが、今は、スマートフォンを使っての違法オンライン賭博が問題で、20代・30代の若い世代のギャンブル依存症が増えていることを知った。家族の会では、当事者の集まりや家族の集まりを開催し、支援を行っていた。

本市の消費者生活センターに聞いたところ、本市でも保護者からの相談があったり、中高生のスマホにはフィルターがかかっているため、祖父母のスマホを借用して課金をして困っていると祖父母からの相談もあるとのことでした。

高校生や大学生にオンライン賭博が違法であることや、ギャンブル依存症は病気であり、適切な治療が必要なことなどの啓発が必要では。

→ (健康福祉部長) ギャンブルにのめり込むことで、日常生活や社会生活に支障を生じさせるだけでなく、多重債務や自殺などの重大な問題を生じさせる。また、早期の支援や治療で回復が期待できる一方、病気

であると気づきづらく、相談や治療に繋がりにくい病気とされている。

高校生や大学生など若い世代向けに、ギャンブル依存症に陥らないよう、ギャンブル依存症が病気であることなど、正しい知識について、広報やホームページを活用して啓発したい。

(質問) 白山市内にある3つの高校、1つの大学に直接伝えることも必要では。

→ (健康福祉部長) 高校や大学に出向き、伝えたい。

(質問) ギャンブル依存症で困っている当



コロナ禍の記録誌については、自治体だけでなく、国にも行った対策の有効性や妥当性、また、備えが充分だったかなど、検証を行うよう求めていきます。

事者や家族の方に、家族の会の活動を知らせることも重要では。

→ (健康福祉部長) ギャンブル依存症の治療については、本人の努力だけでなく、家族など周囲の支えも必要。同じ立場で苦しんでいる家族同士が思いを語る家族の会について周知することも重要。全国ギャンブル依存症家族の会や県の専門相談窓口である石川県こころの健康センターについて広報やホームページを活用して周知したい。

ジオパークを観光に、市役所職員の名刺について

(質問) 白山手取川世界ジオパークを観光に活かすための研修に参加してきた。

そこで、全国のジオパークが観光振興につながらないのは、ジオパークのストーリーに興味を持つ方が少ないためであること。ジオパークを観光に活かすためには、ジオパークのストーリーとは別に、ジオスポットを活かしながら、民間を巻き込み作成する必要があるとの指摘を受けた。

その通りだと思った。そこで、ジオパーク推進協議会は4年ごとの認定や教育に特化し、ジオを活かす観光については、民間を巻き込み、別組織をつくり、観光のためのストーリーをつくり、その中にジオスポットを織り込んでいく。

→ (市長) ジオパークを観光に活かすための組織については、現在、市と市観光連盟が、ジオパーク推進協議会、商工関係団体および民間の観光事業者と連携・情報共有しつつ、観光に活かすためのストーリーを考え、旅行商品の造成に取り組んでいる。今後も、既存の枠組みの中で、観光誘客につなげていきたい。

自然景観、歴史文化、食や産業など、私たちの生活の全てが大地の営みの上にあるのがジオパークの視点。この視点を活用し、新たなストーリーを考えたい。

また、能登地域でのジオパーク申請の報

道があった。県とも歩調を合わせ取り組んでいきたい。

(質問) 市観光連盟に期待したいが。

→ (市長) 3月にオープンしたトレインパーク白山についても、観光連盟に頑張ってもらっている。これからはしっかりと頑張ってもらいたい。

(質問) ストーリーをつくる際は、ターゲットをはっきりさせないといけない。ターゲットを外国人観光客とし、外国人観光客の本物志向や体験志向に答えるストーリーづくりを。

→ (市長) 外国人観光客の誘致について、可能性は大いにありと認識しているが、受け入れ事業者、施設、人材に限られるなど課題が多い。現在、御祓体験やレンタサイクルは外国人観光客の実績が伸びている。外国人観光客に響く魅力的なコンテンツの充実とプロモーションについて研究していきたい。



名刺を侮ってはいけない

(質問) 現在、デザインもバラバラで、自費で作成している市役所職員の名刺について、民間企業のように、市をPRする統一したデザインで、公費で作成しては。

→ (総務部長) 市のPRのため名刺を活用

することは意義のあること。しかし、作成経費を公費でまかなうとなると、人事異動

により名刺が無駄になるなど課題が多い。今後先進事例を参考に、慎重に判断したい。



金沢を多くの外国人観光客が訪れており、オーバーツーリズムになってきつつあります。石川線を活用し、外国人を誘客するために、ジオパークを活用すべきです。

小・中学校で教員以外の人材の活用を

(質問) 作業療法士とは、運動や感覚、神経といった心身機能や社会の中で適応する能力を、作業を通じて支援する国家資格であり、アメリカなどでは、学校に広く配置されている。通級教室の指導や、発達障害のある子の支援や保護者支援が行える。作業療法士を派遣する制度を新設しては。

→ (教育長) これまでも県内の医療機関に作業療法士の派遣を依頼し、指導助言を受けてきたい事例もあり、必要性は認める。しかし、人員確保が難しい。今後もあり方を研究していく。

(質問) 現在、小中学校では掃除を週2から3回に減らし、時間の余裕を持たせている。ワックスがけも外注している学校が増えている。小中学校の掃除やワックスがけを市でまとめて外注しては。

→ (教育長) 掃除で、自分たちの学校は自分たちできれいに保つことで物を大切にす気持ちや次に使う仲間を思いやる気持ちを学んでいる。普段の掃除では行き届きにくいところは、学校校務員やスクールサポートスタッフが対応している。

ワックスがけも学校で、随時学校予算により業者へ委託して対応している。

子どもたちによる日々の清掃と学校判断による業者委託を併せて行うことで、機械的な維持管理を避け、勤労と奉仕の精神をも育む細やかな学校運営に繋がると考えており、一括発注は現在のところ考えていない。

(質問) 掃除は教育効果もあり大切なことは理解できる。ワックスがけを学校ごとに学校予算で業者発注するのは無駄が多いのでは。



教育効果はありますが、忙しすぎる学校現場では掃除の実施は難しくなっています。

→ (教育長) 学校でワックスがけを業者発注している学校は14校で、約半数。市で一括発注すると効率的だが、仕様が共通になったり、施行期間が学校の都合に合わないなどデメリットもある。今後学校現場からニーズが高まれば検討したい。

(質問) 不登校の子を持つ保護者支援のため、一部の学校で開催している不登校の子を持つ保護者の会を、民間の力もお借りして、全小中学校で開催しては。

→ (教育長) 不登校の子を持つ保護者が、将来について不安に感じるなど悩んでいることをよく聞く。保護者の会を開催している小中学校もあり、参加者から同じ悩みを持つ方と相談することができて心が軽くなったとの声も聞いている。今後は、コミュニティスクール等も活用し、周知を図り、地域ボランティアの力を借りるなど、各校に取り組みを促していきたい。



教員が不足する中、教員以外の人材を学校で活用することは、大切なことです。今年から全小中学校で地域と学校を結ぶために任命されたコーディネーターの役割は重要です。そして、教育委員会には、学校に関わる教員以外の人材の増員を求めます。

※市政へのご意見、ご要望をお寄せください。

e-mail : toshiya6537@yahoo.co.jp

TEL : 275-0179

FAX : 275-0924